第13回簡易保険郵便年金作文コンクール 郵政大臣賞受賞作品

生きるということ

横越中2年
渡辺亜希子

「人間にとって『生きる』ということは、何だろう。」

息をし、心臓が動いている事だと言う人もいるでしょう以前の私も、そんな考え方しか出来ない心の狭い人間でした。

ところが、そんな私の貧しい考え方を少しずつ変えていくものがありました。それは幼いうちに奉公に出され、沢山の苦労をし、そして、その苦労を乗り越えて、今日働き続ける祖母の姿でした。

ある日の夕方、いつもの様に、学校での五時間の授業と部活を終えて家に着いた私は二階の部屋で着替えを済ませ下へ降りて、台所へ行きました。台所では、網戸を通り抜ける春の風でカーテンが揺れていました。

そんな台所の片隅で、祖母が静かにジャガイモの皮をむいていました。「今夜は、カレーかな。」そんな事を考えながら、しばらく祖母を眺めていました。

どの位経ったでしょう。私は、ふと、祖母の手に目を落としました。祖母の手はしわしわでした。小学校もそこそこに、奉公に出され、苦労した祖母の手は、長い間仕事をしてきた手でした。しわくちゃで、それでいてたくましい祖母の手からは、何か、誇らしいものを感じました。

そして私は、思わず目を細めたのでした。網戸を透かして入ってきた夕陽のせいでしょうか、仕事をしている祖母の姿が、なんだか大きく、生き生きとした存在として、私の目に映ったのです。

前に祖母から、小さかった頃の苦労話を聞いた事があります。まだ小学校を出たばかりで、体の小さかった少女には、奉公先での初めての仕事や、先輩達への気遣いやらで辛い事、苦しい事は、毎日のようにあったそうです。初めて子守りにやられた時などは実家の方の空を眺めていたら急に家が恋しくなって子供をおぶったまま、いつの間にか家の前まで来ていたそうです「白いものが黒いと言われても、決して口答えをしてはいけないよ。」と教えられていた為、「どうして帰って来たんだ。」と問われても、何も答えられずにただ泣くばかりだったそうです。

でも、祖母は最後にこう言いました。

「でも、ばあちゃんは、小さい時に母親を無くし、いろんな所に奉公に出された事を感謝こそすれ、決して親や周囲の人達を恨んだり、憎んだりはしなかったよ。ぐれた所で自分の人生だもの。人の人生を生きるんじゃない。自分の人生を、自分自身で生きるんだ、そう思って頑張って来たから、ここまで来れたんだよ。」と。そう言った祖母がとても力強く見えたのを覚えています。

部屋に戻った私は、自分なりに一生懸命考えて見ました「生きるということについて。」

祖母は、苦しい事や辛い事があると、いつもそれを乗り越えようと努力し、前向きに生きてきました。例えそれが自分にとってどんなに大きな難題だったとしても、それについて、自分の納得の行く答えが出るまで、決っして逃げ出したりはしませんでした。私も、そんな祖母の姿をよく見た事があります。その度に私もこんなおばあちゃんになりたいなと思って来ました。

人間、生きていれば、必ずでも、それについてもっと前向きな姿勢で取り組めば、いろんな事が見えてくるはずです。そして、その見えてきたものを生かし、目の前にある試練に立ち向かう事で、味のある、価値ある人生を送れるのではないでしょうか。うんと悩んで、うんと苦しんで、その中から、自力で何かをつかみ取った人間の方が深い味わいを持った人間になれるのではないでしょうか。

みんな、自分の持っている『生』という一つの文字に、生まれてから死ぬまでの出来事を刻み込んで行くのだと思います。それはそれぞれ、色や形の違う個性を持った『生』という文字にになるのではないでしょうか。

良くなっても、悪くなっても自分のたった一つしかないやり直しの利かない人生なのです。どうせ生きるなら、その人生の幕が降りる時、「自分の一生は、さまざまな色や形に恵まれた豊かなものであった。自分がこの世に生を受けた事によって、誰かが幸せになった、誰かの役に立てた」と心から満足の出来る人生を送りたいと私は思います。

そして、これからの自分が創り出す『生』というものを心より一層充実した美しいものにするために、十三年間という今迄の生活を振り返り、反省して、しっかりとした心構えで、これからの生活に臨みたいと思います。

税を知る週間

国は、私たち国民が豊かで安定した暮らしができるように幅広い活動を行っています。

税金は、国が活動するための大切な財源となっています。このように重要な役割を果たしている税金についての仕組みや、使いみちなどを皆さんに十分理解していただき、正しい申告と納税をしていただくことが必要です。

今年も、十一月十一日（日）から十七日（土）までを「税を知る週間」とし、この期間中『この社会あなたの税金が生きている』をメインテーマに、新聞やテレビ・ラジオなどを通じた座談会やデパートなどでの臨時税務相談、税金展の開設など各種の行事を行います。

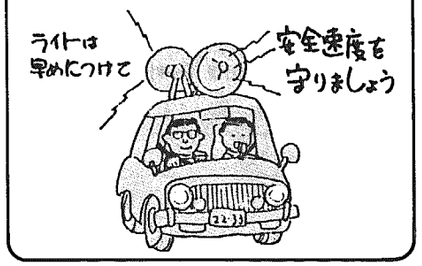
なお、税金について困ったときや分からないときは、税を知る週間中に限らず最寄りの税務署・税務相談室へお気軽にお尋ねください。

お知らせ

税金は納期まで忘れずに納めましょう

十一月の納税は、固定資産税（第四期）です

夕暮れは、ライトを早めに、前方注意



10月21日から11月20日までは夕暮れ時の交通事故防止運動実施期間です。

秋の深まりとともに日の暮れるのも早まり、また天候も不順になることなどから、例年、歩行者、自転車利用者などを中心とした交通事故が多発しています。そこで、次のことを正しく守って事故を防止しましょう。

⊙ライトは早めに！

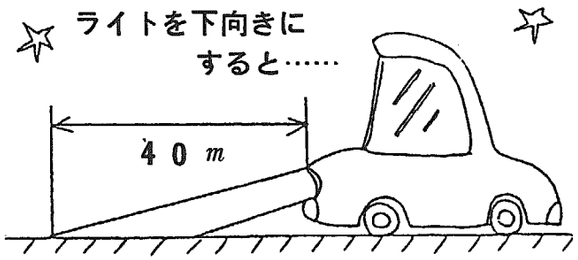
ライトをつけることは、視界をよくするだけでなく、相手に自分の存在を知らせることにもなります。

自動車やバイクはもとより自転車も早目にライトをつけましょう。

⊙夜間は、スピードを控えめに！

夜間はライトの光だけが頼りですが、その照射距離は下向きの場合でせいぜい四〇㍍です。

夜間はスピードを落して運転しましょう。



⊙正しい横断に努めよう！

歩行者事故の多くは、横断中に起きています。道路への急の飛び出しや、車の直前直後の横断は大へん危険です。

横断するときは、道路端でいったん止まり、安全を確かめたうえで横断しましょう。

⊙明るい色の服装を身につけよう！

夜間外出するときは、目立つ明るい色の服装や夜光反射材を身につけましょう。

重点

1. ライトの早期点灯と安全速度の励行
2. 歩行者及び自転車利用者の安全通行の励行
3. シートベルト・ヘルメット着用の推進

近く「横越村地名考」発刊

曽我さん、消えゆく地名を調査

戦後、耕地整理などによって消えていった地名も数多い。

こうしたことから、曽我広見さん（横越・70歳）は昨年の夏ころから村の地名調査を行ない十二月初旬に「横越村地名考」を発刊することになりました。

本は、A五版一七〇頁、二二〇にのぼる地名を地図入りで紹介、地名の由来を解説しています。

地名の一例をあげますと、横越＝「芋曽根」「十二之木」、沢海＝「ミドリ」、木津＝「天王杉」、二本木＝「干刈」、小杉＝「御蔵小路」、藤山＝「駒楚根」、駒込＝「箙割」。

本をご希望する方は、曽我さん宅、公民館に申し込みを。

□歳時記□ 冬眠

紅葉が終り、木の葉が散り始めると、そろそろ動物たちの冬眠シーズンです。

冬を寝て過ごす動物といえば、カエル・リス・クマなどいろいろいます。ところが、ひとくちに冬眠といっても、眠りかたの程度などによってカエル型、コウモリ型、クマ型の三つのタイプに分けられています。

カエル型は、カエル、ヘビカメなど冷血動物にみられる冬眠で、気温が下がると体温も低下し、活動しなくなります。一度冬眠に入ると、気温が一定の高さにならない限りどんな刺激を与えても目を覚ましません。

コウモリ型は、ヤマネ、シマリスなどの温血動物にみられる冬眠で、冬眠中は体温が下がり、呼吸数も減りますが物音や光などの刺激で目を覚ますこともあります。

クマ・タヌキなどのクマ型は、体温は下がらず、刺激にはすぐ反応します。人間に例えるならば、冬中うたたねをしているといったところでしょう。

人間は冬眠しませんが「冬ごもり」という言葉が俳句の季語にあります。最近ではあまり見ることができませんが茅やワラで家の周りを雪囲いで覆い、冬を過ごす――。雪国ならではの冬の生活風景がありましたが、家の構造や暖房もよく効くようになり、冬ごもりという感じはなくなっているようです。

おめでたい

新生児

地区	親名
佐藤　瞳	良司　沢海上
浅見　茂昭	哲男　焼山
今井　裕	孝　木津中
小野塚　純	稔　木津下
渡辺　大地	良重　二本木中
遠藤　洋介	敏明　小杉中
高橋　望	徳衛　横越中

（9月届）

地区	親名
駒沢　友美	重栄　木津下
伊藤　卓巳	悦夫　横越下
韮沢　牧子	二夫　木津上
小池　里美	幸栄　横越下
坂内　友美	正行　小杉下
仲村　貫行	浩行　二本木中
佐藤　恵介	俊弘　木津下
田辺　功	充　小杉下
川崎　智貴	長栄　沢海下
片山　浩司	秀二　横越下
椎谷　隼人	和男　小杉中
大竹　里美	正市　木津中
阿部江利子	正作　駒込
石附　勝美	勝治　小杉上
別所　陽平	浩一　沢海上

おめでたい

（8月届）

故人	地区	年令
渡辺　ヨキ	川根谷内	89
小山健次郎	沢海下	56
杵鞭　章吾	焼山	74
桑野　栄一	藤山	63

（9月届）

故人	地区	年令
市村安太郎	沢海上	77
枝並　チヨ	小杉上	79
阿部　由雄	横越中	74

おめでたい

（8月届）

新郎新婦	地区
佐久間隆雄「広島」恵美子	川根谷内
	亀田町

おめでとう

（8月届）